

只木ゼミ前期第2問

甲は、制服姿でけん銃を携帯していた巡査 A から A を殺してけん銃を強取しようとして決意し、建設用びょう打銃を改造した手製装薬銃を構えると、A の背後約 1m のところから同人の右肩部をねらって、びょうを 1 本発射した。このびょうは、A に命中して重傷を負わせたが、さらにその身体を貫通し、たまたま約 30m 前方で会話していた BC のうち、B の腹部に命中して同人を死亡させたが、C は無傷だった。なお、甲は BC がいることを認識していなかった。

甲の罪責について検討せよ。

参考裁判例:最高裁昭和 53 年 7 月 28 日